

EFFECTOR

For an Inclusive Society

Vol.10

ー 龍谷チャレンジ「社会連携・社会貢献部門」 活躍する学生たちー

01 S-Projectと宇治田原町の取り組み

02 S-Projectの今後の展望について

03 2025年度龍谷チャレンジ社会連携・社会
貢献部門採択団体の活動紹介



2025年度、Vol.10となる龍谷大学社会連携事例特別編集「EFFECTOR」は、2016年にスタートした学生の自主活動や社会連携活動を支援する「龍谷チャレンジ」における社会連携・社会貢献部門の2025年度採択団体にフォーカスし、その活動の紹介を行います。

特集記事として、先端理工学部知能情報メディア課程で学ぶ学生を中心に、岩嶋浩樹先端理工学部知能情報メディア課程実験講師の指導の下、宇治田原町活性化プロジェクトに取り組んでいるS-Projectの活動について紹介します。S-Projectは、宇治田原町において、主に京都グリーンライナー（旧・宇治やんたんライナー）利用促進や宗円交遊庵やんたんの情報発信支援、特産品を活用した商品開発等に取り組み、町内でのイベントの企画運営等にも携わり、密接な関わりを持っている団体です。S-Projectのこれまでの活動内容に加え、今後の展望についても紹介していきます。

また、その他の2025年度「龍谷チャレンジ」社会連携・社会貢献部門に採択された団体の活動についても紹介します。

01 S-Projectと宇治田原町の取り組み

現在は主に宇治田原町で活動しているS-Projectですが、2006年に発足した20年ほどの歴史を持つ団体です。発足のきっかけや宇治田原町と関わりを持つまでの取り組みについて、伺ってみました。



お話を聞かせていただいたS-Projectの方々（左から岩嶋先生、井原さん、谷口さん、福本さん）

岩嶋 浩樹

（いわしま ひろき）

先端理工学部知能情報メディア課程実験講師

専門分野は 地域メディア、映像、メディアミックス、地域活性化 など幅広く、メディアを活用した地域社会の活性化やコミュニティ支援といった領域に強みを持っている。

学内においては、カメラなどの映像/録音機器を用いた映像制作の技術を身に着けるための演習等を担当している。



<S-Project発足！！>

・S-Projectの発足のきっかけは？

岩嶋先生：発足のきっかけは社会学部コミュニティマネジメント学科所属の教員から、情報発信にあたってIT等を活用していきたいのでアドバイスが欲しいということで、Webページや動画の制作方法等について教えて欲しいと依頼を受け、説明を行いました。説明を進めていく中で、学生から「岩嶋先生のお話も聞きながら活動を進めたい」と申し出をいただき、依頼をしてこられた先生方が情報誌や新聞等を専門分野にされていたことから、滋賀県の情報発信をするフリーペーパーを作ることになりました。私は機材の使用方法も含め、動画の制作や写真の撮り方をレクチャーしていました。活動を進めていく

と、せっくなのでこのプロジェクトに名前を付けようということになり、滋賀県の頭文字である「S」をとって、「S-project」となったのがこのプロジェクト誕生の話です。その後、発行するフリーペーパーの名前も滋賀県の「S」と、滋賀のツボということでポット（pot）、合わせて「S-pot!」という名前になりました。

当初はアドバイザー的な立ち位置で関わっていたのですが、私も若かったので休日に学生が取材に出向くのに同行したり、共に活動していくうちに、しっかりと活動にも参加するようになりました。そこから考えると20年ほど経っているので、今一緒に活動している

学生さんが生まれたころから活動していることになります。そう考えると非常に感慨深いものがあります。



当初の活動で発行していたS-pot！

<これまでの主な活動>

・宇治田原町との関わりを持つまでに行ってきた取り組みは？

岩嶋先生：プロジェクトの発足当初は、社会学部の学生・教職員がメインで活動していたので、先ほども述べたようにフリーペーパー「S-pot!」の制作であったり、滋賀県の地域に根差した活動を主としていました。活動をしていく中、地上波デジタル放送が始まったタイミングで、総務省から各都道府県に地デジ普及のための予算が下りたことに伴い、滋賀県が県内の各テレビ局、びわ湖放送、ZTV、NHK天津放送局と協力し、「びわ湖e-まち映像協議会」を立ち上げました。そこに、知見として大学の教員が参画したほうがいいだろうということで、龍谷大学理工学部（現先端理工学部）の杉田教授、岡田教授が参画し、私はそのお手伝いとしてテレビ局側とのやり取りをしていました。

その中で、テレビ局からS-Projectとして学生だけでテレビ番組を作成してみないかというオファーをいただき、実際にびわ湖放送で番組を作ったり、NHKのニュース素材の制作

に協力をしました。ZTVさんでは、これは今でも継続している事業になりますが、子どもたちが各地の取材を行う「子どもニュース」という番組を制作しました。当時は社会学部



当時の取り組みについて語る岩嶋先生

の学生が多く活動しており、地域とも密接なつながりもあったため、地域の小学生から高校生も含めて共に活動していました。時期によっては「S-pot!」の制作にも関わってもらっていたこともあり、「子どもニュース」はいまでも続いており、当時子どもとしてテレビに出演していた演者が、大人となった今でも制作に関わってくれています。

このような活動をしつつ、学生たちにもっとやりたいことはないかと協議を重ね、理工学部（現先端理工学部）の学生もメンバーに加え、好きなことをやっていこうということで、ここで挙げてしまうときりがないぐらい多岐にわたる活動に取り組んできました。

その後、私が研究していた地域メディアに関する取り組みの中でご縁が生まれ、宇治田原町と関わりを持つようになりました。

宇治田原町より「学生さんが町内で何かやってみませんか？」とお声掛けをいただいたのが今の活動を始めるきっかけです。

<S-Projectで活動する学生に聞いてみる>

・S-Projectに参加したきっかけを教えてください。

谷口：私は先端理工学部知能情報メディア課程に所属していました、授業外で色々な先生方と関わって活動していくPBL(Project Based Learning)があり、その中の動画編集に興味があり1年生時に参加していたところ、2年生になり、岩嶋先生と出会ったのがきっかけです。はじめ、龍谷大学は深草キャンパスのイメージが強く、瀬田キャンパスの存在があまり知られていないというイメージから、瀬田キャンパスの活性化を目指そうということでWebページの作成を行っていました。1年間でその活動は終わったんですけども、ちょうどそのころに岩嶋先生から宇治田原町のことを伺い、興味を持って実際に行ってみると、お茶の魅力など、色々自分の興味を引くものがあったので深く関わっていくようになりました。もともと友達だったメンバーと活動でき

たことで、思っていることをぶつけ合いながらも楽しくやってこれたのがいい思い出になりました。



参加したきっかけについて話す井原さんと福本さん

福本：私はもともと先端理工学部の環境科学課程に入学したんですけど、2年目に知能情報

メディア課程に課程を変更した時に、サポートするよと申し出てくださったのが岩嶋先生でした。まだ何もやりたいことが定まっておらず、サークルにも入っていない。このままだとやりたいことの方向性が定まらないままに大学生活を過ごしていくと思っていたところ、S-Projectの活動の話を聞いて参加しました。井原さんも一緒に入り、私の至らない部分を彼女がうまく補完してくれているので本当に良かったです。おかげで充実した学生生活を送ることができています。井原：私は学内でサークルを探しているときに、じっくりくるサークルが全くなく迷っていた時に福本さんから声を掛けてもらい、二人で岩嶋先生の話を聞きに行き、自分たちが主体となって活動できるということに魅力を感じ、参加することを決めました。

<宇治田原町との関わり>

・宇治田原町で取り組んできた主な活動は？

谷口：宇治田原町での活動は2025年度末で2年になります。活動を始めるにあたって、宇治田原町からは、何らかの形で町のことを知ってもらい、町全体を盛り上げるような取り組みを行ってほしいという依頼がありました。宇治田原町に伺って初めてか2回目ぐらいの時、「やすらぎの道」という田原川沿いの遊歩道があるのですが、ちょうど桜の季節で川沿いの桜並木が満開で、その風光明媚な景色を見て、宇治田原町内にこのようなスポットが他にももっとたくさんあるのではないかという話になりました。そこで、ネットを使って宇治田原町のことを調べてみたものの、情報があまり出てこず、これは非常にもったいないということで、宇治田原町の観光スポットを紹介するサイトを作ろうということになりました。



やすらぎの道の桜（宇治田原観光情報サイトより）

現在は京都グリーンライナーと名前が変わりましたが、当時宇治やんたんライナーという名称で、8月下旬から11月中旬にかけ、週末限定でJR宇治駅から宇治田原町に向けて観光用のバスが出されていました。私たちもそれに乗り、停留所周辺のお店や観光スポット取材し、その情報をWebページ上にアップしていきしました。停留所周辺のお店や観光スポットは、予めGoogleマップなどで目星をつけて



取材の様子

おき、電話で趣旨説明をしたうえでアポイントを取り、現地で取材し、私たち学生目線でお店や観光スポットの紹介記事を作成していきしました。宇治田原町は電車が通っていないので、生活する方や車以外で来られる方の交通手段がバスとなるので、京阪バスさんにもご協力をいただきました。



活動の話をしてくれる谷口さん

当初は観光スポットやお店の紹介サイト作成を行っていましたが、一旦落ち着いてきたところに、今度は「宗円交遊庵やんたん」という宇治田原町湯屋谷区の共同製茶場跡をリノベーションして、2018年にオープンした施設について、運営する団体である「1738やんたん里づくり会」や「京都府地域おこし協力隊」と連携し、広報活動の協力を行いました。そこではお茶づくりに関する様々な体験ができるにも関わらず、せっかくのいいコンテンツがWeb上でうまく発信できておらず、Webページをリニューアルするということで、全て作り直しを行いました。

また、私たちも実際にお茶づくりを体験をさせてもらい、その様子を撮影し、これまで行ってきた動画作成の技術を使い、広報用の素材として作り、Webページに掲載しました。制作にあたってはレスポンスなデザインを心がけ、チャットボットを導入したり、PC上、スマートフォン上どちらで見てもデザインが崩れないような工夫をしました。煎茶発祥の地でもあることから、お茶を前面に出して広報をしていき、その中で、玉露を使ったクラフトビールの開発も行い、現在はイベント等での販売を行っています。1年目はおおそこのような活動を行いました。

井原：2年目である2025年度は私と福本が中心に活動を行いました。前年度は宇治田原町までの運行を行っていた宇治やんたんライナーが、宇治田原町から和束町までトンネルが開通したことで、京都グリーンライナーに名称を変更し、和束町まで運行範囲が広がりました。

た。そこで、今年は和束町を中心に取材を行い、Webページの更新を進めていきました。福本：その他、昨年度も実施したのですが、AQUAランドリーサテライト宇治田原店に場所の提供を受け、マルシェを開催しました。昨年度は初めてということもあり、情報共有が不足していたことからうまくいかない部分もありましたが、その引継ぎを受け、地域と密に連絡を取り合ったことで、今年度はより良いたちで開催することができました。井原：イベントのチラシは学生（S-Project）側で作成し、京都グリーンライナーとして運行するバスの中をはじめ、様々なところに掲示していただきました。マルシェでは玉露エールの販売も行ったのですが、マルシェの後、ビールだと20歳以上の大人しか飲むことができないとのご意見をいただきました。せっかく玉露の茶葉を使った商品を作るのであれば、老若男女問わず楽しむことができる何かを作ってほしいということで、現在玉露ジェラートの開発を進めています。グルテンフリー、かつ8大アレルギーにも配慮したものを検討しており、年齢だけでなく、アレルギーにも配慮したもので、どなたでも食べていただけるものとしてリリースする予定です。アイスクリームではなくジェラートとしたのは、ジェラートの方が一般的に高級なイメージがありますので、使用している茶葉も手摘み玉露で非常に高価なものを使用することから、高級な冷たいものとして万人受けするジェラートを選びました。



玉露ジェラートの宣材写真

このジェラートやクラフトビールは商標登録まではしていませんが、ポップやデザイン、名前も自分たちで作っています。他の商標にも抵触しないように配慮しており、スタートからゴールまで、ほぼすべての制作に関わっています。今あるものを発信するだけでなく、新たに何かを創って情報を発信し、宇治田原町以外の方やインバウンドも含め、もちろん宇治田原町の方にも親しんでもらえるような活動をしています。

・岩嶋先生に聞く、宇治田原町からの学生さんの評判は？

岩嶋先生：学生さんの評判は非常にいいです。特に地域のお店の方からは、「孫のようにかわいい」とよく言われます。地域の方の話もよく聞き、店の紹介については取材した内容に対して誠実な文章でインターネットを使って紹介してくれています。地域の方が苦手な部分を学生が担っていることで、非常に感謝されています。

宇治田原町役場からは今や完全に信頼を得ていて、大学生が町を活性化させるプロジェクトとして、多くのメディアにも取り上げて頂き、年間10件程度は新聞、テレビ等で活動が紹介されています。役場が独自で取り組んだ事業では、メディアが取り上げてくれることは少ないですが、大学生が主体となって事業を実施することで注目度が増し、非常に大きな宣伝効果が得られています。

・宇治田原町という町と関わっての率直な感想

谷口：私自身は大阪市内に住んでいるので、宇治田原町に対してはのどかであること、よそ者がいきなり来て、話なんて聞いてもらえるわけがないと思っていました。しかし実際はそうではなく、どこに行っても歓迎していただき、人の温かみを感じました。いわゆる都会に住んでいる自分にとってはこれまで経験したことのないことでした。また、私が住んでいる地域とは違ったゆっくりとした時間の流れも感じる事ができ、心を落ち着けることができる場所です。

井原：私は六地蔵に住んでいるのでおそらくメンバーの中で1番自宅から近いのですが、宇治田原町に対して特段何か印象を持っているわけではありませんでした。Webページの

また、情報分野を専攻する学生が主体で動いていることで、町の方々や役場の方が苦手なIT系のことについて技術的なサポートもできることから、さらに信頼は厚いです。

共に活動して2年も経つと、新聞、テレビといったメディアにも広く顔が出ていることから、宇治田原町内でもちょっとした有名人にもなっており、継続して活動をしてきたことで、一過性になりがちな大学の活動とは一線を画しています。よくある話が、活動が一度きりで以降は何もないことや、町側から要望をだしても断られることが多い中、S-Projectに関しては全てをやってくれるという訳ではないけれど、「依頼に対して真摯に対応してくれる」という評価をいただいています。その結果、宇治田原町も龍谷大学（S-Project）には信頼して何かを任せていただけ、

役場に加え、企業と連携する事業にも声を掛けていただくこともあります。関わりを持ったある企業はS-Projectの活動を応援してくれるようになり、その企業さんとは関係ない活動にまで協力をいただくこともあります。



防災イベントに参加しているときの様子

作成のために取材をしている中で、なぜ宇治田原町に住んでいるのかと伺ったところ、引越して町から出ていく方も大勢いるけれども、地域のつながりが強く、仲がいいので離れたくないという話を聞いて、とても素敵な場所だという印象を持つようになりました。



宗円交遊庵やんたんのイベント打合せ



福本：私自身も京都に住んでいるのですが、地元はそれなりに住民も多いけれど、それぞ

れの関わりがかなり薄いのにに対し、宇治田原町内でイベントを行うと、皆さんが例えば「今日は〇〇さん用事があるから来れないって」というような個人の予定まで把握するほど日頃からコミュニケーションをとられていることに非常に驚きました。防災関連のイベントに参加させて頂いた時も、積極的に参加される姿や、スマホなんかなくてもお互いのことが分かっていることが私たちにとっては衝撃的でした。関わるようになって思ったのは、非常に温かい町であるということです。あとはやっぱりお茶が美味しいです。いろいろなところで出してもらってお茶がそれぞれにとても美味しいです。お茶の淹れ方も教えていただき、お茶にもとても詳しくなりました。

02 S-Projectの今後の展望について

宇治田原町で様々な活動をしてきたS-Projectですが、今後はさらに活躍の場を広げていくことを計画しているようです。今後、S-Projectが宇治田原町をはじめ、どのような活動の展開を計画しているのでしょうか？

・S-projectとしての宇治田原町での活動と今後の展望について

井原：今後はこの玉露エールや玉露ジェラートといった玉露シリーズをいろいろなところで販売したいと考えています。そのためには認知度の向上も必要だと思うので、宇治田原町周辺地域以外の方に向けてどのように発信したら認知度を上げられるかを考えています。

町内でS-Projectが主体で行っているイベントも複数あるので、それも継続していきます。直近で言うと4月11日（土）と5月2日（土）に維中前のバス停付近で「バス停カフェ」を開催し、玉露エールと玉露ジェラートの販売を行います。また、4月18日（土）は、町内にあるAQUAランドリーサテライト宇治田原店にお声掛けいただき、敷地内で行うマルシェでも販売することが決まっています。直近で言うところの3件ですね。

ジェラートについては開発段階で非常に好評をいただいています。岩嶋先生を介していろいろなところから販売のオファーが来いています。どこまで対応できるかわかりませんが、可能な限り出向きたいと考えています。

福本：夏には京都市内百貨店の催事場での販売も予定しています。私たちとしては、京都市内で販売して海外の方の目にも止まってほしいと考えていたので、大きなチャンスをいただいたと思っています。玉露エールと玉露ジェラートについては、ふるさと納税の返礼品にすることも検討されていますので、実現すると広報の範囲も格段に広がっていくと思います。



今後の活動について話す井原さん、福本さんと岩嶋先生

また、お茶の京都グリーンライナーからもコンテンツ拡大の依頼を受けていますので、活動の範囲が広がっていきそうです。

2026年度はこのように今ある玉露エールと玉露ジェラートを用いて広報活動を行ったり、お茶の京都グリーンライナーのコンテンツ拡大が主な活動となりそうですが、それがひと段落したら、第3、第4と玉露シリーズを増やして予定です。



宇治やんたんライナーと京都グリーンライナーの紹介冊子

宇治田原町では確固たる地位を築いて活動に取り組んでいるS-Projectですが、今後は活躍の場を宇治田原町を中心にさらに広範囲に広げていくようで、益々の活躍が期待されるそうです。今後もS-Projectの活躍を追い続けていきたいと思っています！

03 2025年度龍谷チャレンジ 社会連携・社会貢献部門 採択団体の活動紹介

2025年度、S-Project以外にも多数の団体が龍谷チャレンジ社会連携・社会貢献部門に採択され各地で活躍しています。ここでは2025年度に採択された団体の活動内容についてご紹介させていただきます。

～宇川の「食」発展プロジェクト～

獣害に悩む京丹後市宇川地域の団体・農家と協力し、地域で育てた農産物を使って商品開発・製造・販売を行っています。地域内外での試食会や交流会などのイベント、マルシェや大学のオープンキャンパス等での販売を通じて地域内外の人に宇川地域の魅力を知ってもらい、地域を応援してくれる人を増やしています。

また、加工により付加価値をつけた長期保存可能な特産品の販売ルートの開発により、持続可能な地域経済の実現も目指しています。今年度は獣害を受けながらも収穫できたさつまいもを使った梅ジャムや芋ジャムを商品化し、宇川で行ったイベントで、宇川地域をはじめ、地域外の方にも多数販売できたことで、広く情報発信ができ、地域とも信頼関係を構築することができました。

を構築することができました。

今後は製品の販路拡大を目指し、より多くの方に宇川のことを知ってもらえるよう活動していく予定としています。

～福学連携 福カフェプロジェクト～

社会福祉法人南山城学園が運営するカフェ「さびゆいえ」との共催でこども食堂を開催しています。貧困状態や孤食状態にあるご家庭・子どもをターゲットに宇治市役所と連携することで、支援を必要としている子どもに確実に支援を届けられるこども食堂の企画設計と運営を行っています。また、食事だけでなく職員や大学生と関わる（遊ぶ等）時間を

設けることで、子どもの居場所や交流の場としての機能の醸成も目指しています。

今年度は5回の子ども食堂を実施し、持ち帰りとイートインの二形態で対応を行いました。毎回平均して10名程度が参加していただき、リピートしていただけることも増えてきました。食事提供の時間までは子どもたちと一緒に遊び、単に食事提供するだけでなく、

子どもたちと関わりを深めることで、居場所づくりにも努めています！



～深草ベース守る場プロジェクト～

京阪・龍谷大学前深草駅の空き地「深草ベース」を活用し、地域住民の憩いの場・交流の場として住民同士の協働を促し、住み続けられる「まちづくり」に取り組んでいます。花壇等美観への取り組み、井戸の掘削や防災かまどを設置するといった活動をおこなっています。

花壇等は生物多様性の場所とするとともに、

深草ベースを日常的な住民交流の場に育て、災害時にはスムーズに防災基地としての機能を果たせることを目的としています。

今年度、防災井戸の整備、防災かまどの設置をしたことで、非常時に炊き出しが可能な環境を整え、避難生活における生活機能を維持することに貢献できる基盤を整備することができました。

ハード面が整いつつあるので、今後は地域の方々継続的に関わる場へと発展させ、防災意識とコミュニティ形成の両立を目指し、活動していきます！

～真鍋ゼミ商品開発班～

近年、不作の影響により出荷できない黒豆が増加傾向にあるものの、主にきな粉への加工にとどまり、活用の幅が限られています。そこで私たちは、黒豆に新たな可能性を見出し、若い世代の「黒豆離れ」を改善したいと考えました。このような背景から、京都府京丹波町の農家や役場と協働し、SNS映えを意識した「黒豆タウンカロン」を開発しました。

真鍋ゼミ主催の和輪話フェスでの販売を目標に、京丹波マルシェでの意見収集や役場での



合同試作会を通じて試作を重ね、商品化に成功しました。

イベントでは京丹波町と黒豆の魅力を発信し、若者から高い評価を得ました。さらに、イベント後も継続販売を目指し、地域還元につながる取り組みへと発展させることで、持続的な連携関係を構築しました。

～大岩街道周辺地域活性化プロジェクト～



大岩街道周辺地域の景観向上や地域の人々の交流促進、地域の魅力の再発見によって地域をより明るく活気のある場所にするを目的に、活動を主に行いました。

これまで継続してきた清掃活動、通信配布、イベント開催は引き続き今年度も行い、地域の人々が暮らしやすい地域につながる活動ができました。

春・冬に開催したイベントでは地域の畑で採れた野菜を含めた季節を感じられる料理を振る舞い、地域内学生・地域・行政職員との交流が生まれました。2つのイベントの参加者数は合計して70名ほどであり、私たち学生と地域住民や事業所、行政、京都大学大学院の方などに来ていただくことができました。

～Jazzフェスプロジェクト～

滋賀県東近江市で行われている「びわこジャズフェス」の運営団体と連携し、東近江市の地域間交流と活性化を目指しています。今年度で20年を迎える「びわこジャズフェス」も全国で同様の取り組みと同じく運営課題を抱え岐路にたっており、今回、イベント企画運営に参加し、課題の観察、キーパーソンとの対話を通じて、老若男女問わず参加

できるイベントを企画することで、多世代間交流の創出とジャズフェスの更なる発展を目指しました。

実行委員会との継続的な打ち合わせを通じて、私たち学生の視点を取り入れた企画案が具体化され、次年度のイベントとして採択されたことにより、地域イベントにおける新たな試みの創出につながりました。

学生と実行委員会、地域関係者との間に協働関係が構築され、単発的な関わりにとどまらず、次年度以降のイベント運営へと継続的に関与する体制が整ったことで、本事業は、地域イベントを通じて人と人がつながる機会を創出し、地域に対する関心や愛着を高めるきっかけとなるとともに、私たちにとっても実践的な学びの場となりました。

～淀本町商店街ふれあいライブラリー～

本事業では、淀本町商店街を『人の温もりや安心感に溢れた居心地の良い商店街』にするという目標のもと、ふれあいライブラリー、季節イベント、商店街マップ作成の3つの取り組みを中心に展開しました。

ふれあいライブラリーでは、お借りしている空き店舗で本を用いた企画を実施し、多くの子どもや保護者の方が参加してくれています。

活動を継続してきたことで、商店街振興組合との連携が強化され、季節イベントでの商品提供や、商店街主催イベントで私たちの活動を広報していただく機会が増えました。その結果、自主企画イベントの参加者が増加したり、活動の幅を広げることができました。連携を通じ、地域とのつながりが深まり、より多様な取り組みができるようになりました。



～時コレ！深草アーカイブプロジェクト～

深草学区および周辺住民を対象に、深草アーカイブに保存された写真や資料などの時間の流れのコレクションを活用し、地域学習とまちづくりを推進しています。住民が地域の歴史や文化を学び直すことでその魅力を再発見し、地域への愛着と誇りを育むとともに将来の深草を担う人材育成につなげたいと考えています。

また、イベントの企画・実施を通じて多世代交流を創出し、学び合いを基盤としたコミュニティ強化とコミュニティ・ツーリズムの発展を目指しています。

深草アーカイブの第二集写真集作成のまちあるきでは、深草アーカイブに掲載されている場所をまち歩きすることで、地域住民に深草アーカイブの活用を伝えるとともに、地域

の変化についても紹介することができました。このまち歩きは2度住民参加型で開催し、続けて参加してもらうことで深草についてより理解を深めていただきました。過去を懐かしむことで地域への関心を引き出すこともでき、1回目のワークショップの次に開催したまち歩きでは、第一集の制作の際に参加していなかった方にも参加していただきました。

～龍染～

京都の伝統工芸品である絞り染めの認知向上と技術保存を意義として活動しています。絞り染めの工房に協力を依頼し、共同制作した商品をあべのハルカス近鉄本店で開催される「ハルカス学園祭」にて販売しました。そして、販売により絞り染め製品の普及と、それに際する広報活動・アンケートを行い、絞り染めに対する理解度や購買意欲を高めるこ

とを目指しました。私たち自らが企画から絞り・染め・ラッピングまで全工程を手作業で行い、その実体験をもとに接客したことで、来場者に絞り染めの技法を深く知って



もらう機会となりました。一点ごとに異なる模様の成り立ちを説明することで、来場者の関心を引き出すことができました。多くの方は絞り染めの存在は知っていたものの、「高価」「自分には縁がない」という印象を持たれていました。今回、現代的な配色や日常使いしやすいアイテムを提案したことで若者から中年層にうまく販売することができました。

～のとコネクト～

能登での活動と京都での活動の2軸で「能登とのつながりを増やす、強くする、絶やさない」ことを目標として活動を行いました。能登では地震発生当時からつながりを持たせていただいている地域の行事への参加や、イベントの運営に携わらせていただきました。その体験を京都へと持ち帰り、能登について考えることのできる、身近に感じられる場づく



りを学校内から学校外へと展開しました。和光幼稚園でのイベントや左義長への参加を通して、地域の子どもたちや住民の方々との「立場を超えて、名前呼びあう関係性を以て地域とつながる」目標を達成することができました。また、やなぎだハウスの訪問を通して地域の福祉活動への理解を深め、今後の継続的な関わりにつながる機会となりました。

～龍谷地方創生プロジェクト～



フットパスを軸に、東近江市の関係人口の創出や地域資源を活かしたエコツアーを実施し、ブランド化を目指しています。2025年度はフットパスに加え、高校生に地域の魅力を学ぶ機会を提供し、高校生対象のフットパスも行いました。

また、農泊設立を目指し、農村RMOや農福も併せて研究し、近畿農政局へのヒアリング

調査及び現政策についての政策提言も行うことができました。

今年度、活動の幅を広げたことで、今後は実施する事業を永続的に取り組める体制の構築を目指します。

また、地域のニーズもヒアリングし、さらに充実した活動ができるよう組織運営を強化していきます。

■お問い合わせ先 **REC京都** ※2026年4月1日に価値創造推進部に名称変更します。
Tel : 075-645-2098 / E-mail : s-impact@ad.ryukoku.ac.jp

龍谷大学社会連携事例集特別編集

EFFECTOR
For an Inclusive Society

第10号 2026年3月発行
発行：龍谷エクステンションセンター（REC）
〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
<https://withdragon.rec.seta.ryukoku.ac.jp/>

